

JP166 八重山群島 (やえやまぐんとう)

沖縄県：石垣市、竹富町、与那国町

位置	N 24° 20′	E 123° 50′
----	-----------	------------

面積	58,345ha
----	----------

環境構成【サンゴ礁／樹林（照葉樹林・二次林・マングローブ林等）／河川／農耕地／水田】

八重山群島は南西諸島の最南端に位置し、石垣島、西表島、黒島、竹富島、小浜島、新城島、鳩間島、波照間島、与那国島などの有人の島及び、20 近くの無人の島から構成されている。島は主に石垣島や西表島などの起伏のある山地と河川を有する島と、黒島や竹富島などの琉球石灰岩からなる低平な島に分けることができる。山地は主にスダジイ（沖縄の亜種イタジイ）、オキナワウラジロガシなどの常緑広葉樹林だが、つる性植物や着生植物が多く、谷間にはフカノキ、ヒカゲヘゴなどが見られ熱帯的な要素が強い。琉球石灰岩の低地には、ガジュマル、クワノハエノキ、リュウキュウガキなど多様な植物が見られる。また河口付近の湿地には、ヤエヤマヒルギ、オヒルギなどのマングローブ林が広がり、海岸は島を取り巻くようにサンゴ礁が発達している。



写真提供：佐野清貴

■西表島

西表島は島の殆どが新生代第4期の比較的新しい地質の砂岩や泥岩などで構成されているが、海岸付近には隆起珊瑚礁も見られ、僅かに古生層(緑色片麻岩)が見られる台地状の島で山の南斜面などの乾燥した斜面にはスダジイ(亜種イタジイ)を中心とした、林が見られる。一方川沿いの湿った谷には、高木や着生植物つる植物など多様な植物が複層林を形成し、イリオモテヤマネコに代表される固有の動物が生息し、生態系の豊かな亜熱帯林が形成されている。また、湿度が高いため、着生植物や、樹上で発芽し根で巻き付き絞め殺してしまうガジュマルやオオバアコウも見られる。代表的な高木はオキナワウラジロガシ、アカギ、ギランイヌビワが挙げられるが、台風の影響で、傾いたり歪んだりしていて、高さも30m程に制約されている。また、河川の汽水域にはオヒルギやヤエヤマヒルギなどのマングローブ林が形成され、島の南部を実質的な北限とするマヤプシキ(はまざくろ)も見られる。農耕地は主に、北部ではパイン南部ではサトウキビが耕作され、若干の水田と、近年、肉用牛(子牛生産)飼育により、牧野開発が拡大している。

選定理由

A2	カラスバト・ズアカアオバト
A4i	キアシシギ・キョウジョシギ・ベニアジサシ・エリグロアジサシ

保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（西表島、与那国、名蔵アンパル、仲の神島）、国立公園（西表石垣）、都道府県立自然公園、自然環境保全地域、保護林

<その他>

ラムサール条約登録湿地、国指定天然記念物仲の神島海鳥繁殖地

保全への脅威

- ・観光業の拡大に伴う、リゾート開発
- ・移住ブームによる、住宅地の増加
- ・外来種（インドクジャク、オオヒキガエルなど）の分布拡大
- ・オートキャンプなどのアウトドア活動、節度の無いエコツアー
- ・農薬の散布
- ・畑拡大のための不法な伐採
- ・台風の勢力拡大、干ばつ
- ・風力発電、採鉱・採石
- ・津波
- ・沿岸域や沖の離島のアジサシ類の繁殖地の踏み込み、基地等の開発による森林伐採
- ・石垣島から他の離島への外来種の拡散、移動力の少ない種内での島間の遺伝子の交流の可能性
- ・赤土や畜産廃棄物の河川、海への流出、他国からの漂着ゴミや汚染物質の流れ込み
- ・新石垣空港建設による道路開発、交通量の増加、希少種のロードキル

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
不明
- ・IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
<調査データの入手方法>
生物多様性センターホームページのモニタリングサイト 1000 の調査結果より
- ・IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある

- ・詳細、具体例等：新空港の建設、それに伴う観光業などの開発
IBA 選定基準種の生息環境：普通（70～90%が最適の状態）
- ・IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

- ・環境管理：実施者（石垣市、竹富町、環境省、WWF ジャパンなど）
内容：希少種の保護、外来種の対策、赤土流出防止対策、保護区でのイベント、観察会
- ・外来種のコントロール：実施者（環境省）
内容：オオヒキガエル、シロアゴガエル、インドクジャク、コウライキジ
- ・環境教育活動：実施者（石垣市、環境省、WWF ジャパンなど）
内容：観察会の実施、講演会、学習会など
- ・保全のための人材育成活動：実施者（環境省、WWF ジャパンなど）
内容：観察会、講演会、学習会など
- ・法律制定、政策、規制：実施者（石垣市、竹富町、環境省など）
内容：鳥獣保護区、国立公園、ラムサール条約など
- ・モニタリング調査：実施者（環境省など）
内容：モニタリングサイト 1000 白保-宮良(シギ・チドリ)西表（森林性鳥類）など
国際サンゴ礁研究モニタリングセンター、国指定鳥獣保護区設定に関する調査（名蔵、平成 14 年）（環境省）
- ・経済活動を通じた保全（エコツーリズム等）：実施者（「民間」エコツーリズム協会）
地域の自然保護に結び付くエコツアーの普及活動（石垣島エコツアー連絡会）
2002 年に「西表島エコツーリズムガイドライン」を策定（西表島エコツーリズム協会）
- ・その他：カンムリワシ保護対策検討委員会（環境省）

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・カンムリワシ・リサーチ
- ・日本野鳥の会石垣島支部
- ・東海大学（西表）
- ・日本野鳥の会西表支部

見られる鳥

八重山群島で観察される鳥の種類は、面積に比べて大変豊富で 300 種を越えると言われる。しかし未発表のものも多く、正確な数は不明。傾向として、八重山で繁殖する留鳥や夏鳥の

種類が少なく、冬鳥や渡りの途中に立ち寄る旅鳥の種類が非常に多い。さらに台湾や大陸に近いため、迷鳥と呼ばれる種類が彩りを添えている。

動物地理学的には八重山群島は東洋区に入る。鳥類相でもズグロミゾゴイ、カンムリワシ、ミフウズラ、オオクイナ、キンバト、ズアカアオバト、シロガシラなどの南方系の種類が繁殖している。本土との共通種も繁殖しているが、特に陸鳥の固有亜種が目立つ。リュウキュウキジバト、リュウキュウアオバズク、リュウキュウアカショウビン、リュウキュウキビタキなどの沖縄や奄美地方の固有亜種と、リュウキュウツミ、オリイコゲラ、イシガキヒヨドリ、オリイヤマガラ、イシガキシジュウカラ、オサハシブトガラスなどの八重山地方の固有亜種がある。

海鳥では特に、沖ノ御神島のような沖合の島で、外洋性のオオミズナギドリ、カツオドリ、セグロアジサシ、クロアジサシなどが、サンゴ礁内に散在する小さな島や岩礁では、沿岸性のベニアジサシ、エリグロアジサシが、海岸ではコアジサシが夏鳥として繁殖する。西表島は島の90%が森林に覆われ、300~400m級の山々が連なる山岳地帯。浦内川、仲間川などの40本近い河川を有する。八重山群島の他の島では観察できない、あるいは観察例の少ない、カラスバト（ヨナクニカラスバト）、オオコノハズク（リュウキュウオオコノハズク）、コゲラ（オリイコゲラ）、ヤマガラ（オリイヤマガラ）などが留鳥として生息している。また、近年シロガシラの生息が見られなくなった。

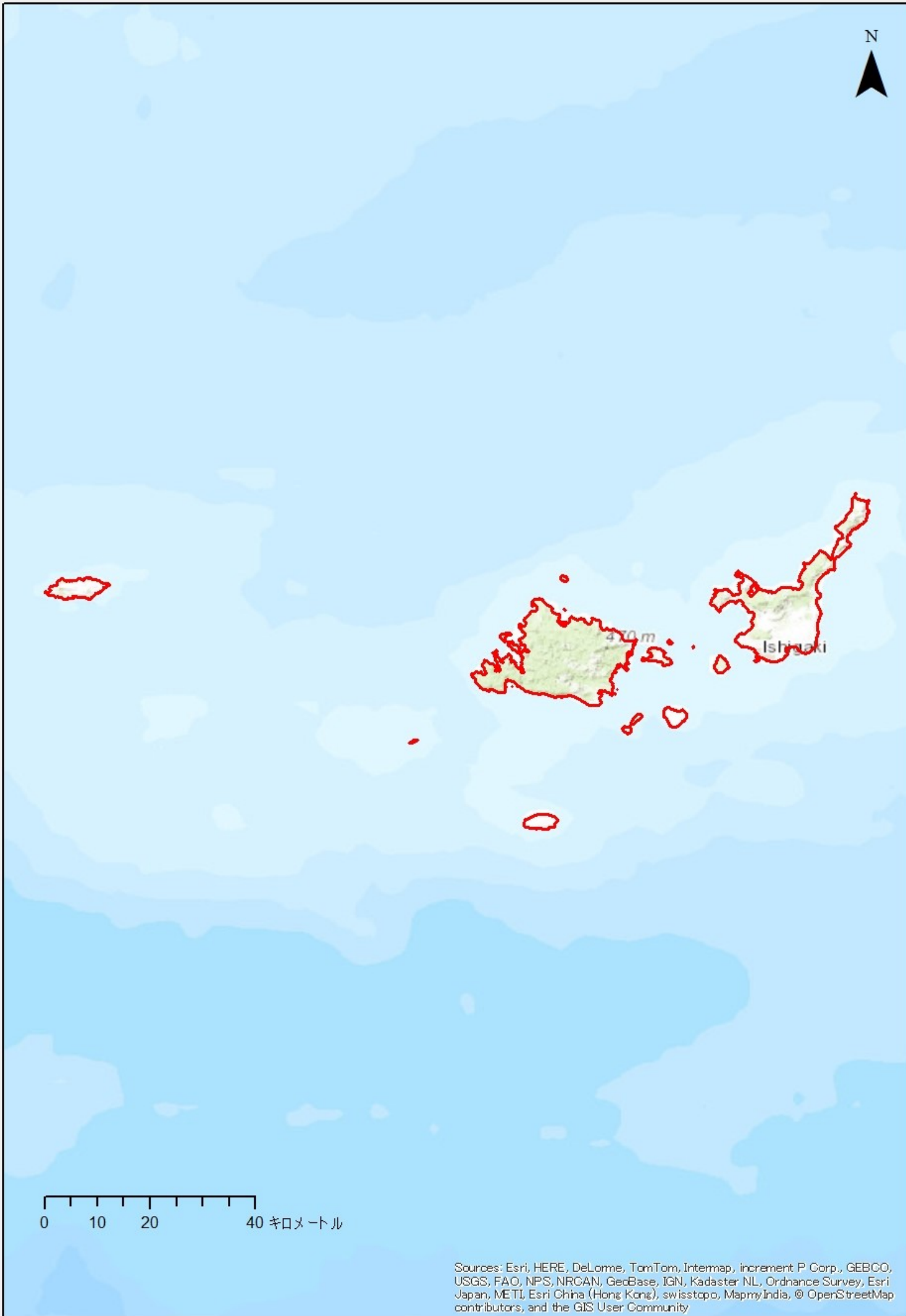
留鳥	リュウキュウヨシゴイ、ズグロミゾゴイ、クロサギ、ムラサキサギ、カルガモ、ツミ、カンムリワシ、ミフウズラ、オオクイナ、シロハラクイナ、シロチドリ、カラスバト、キジバト、キンバト、ズアカアオバト、リュウキュウコノハズク、アオバズク、サンショウクイ、シロガシラ、ヒヨドリ、セッカ、キビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ハシブトガラス
夏鳥	オオミズナギドリ、カツオドリ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、マミジロアジサシ、セグロアジサシ、クロアジサシ、アカショウビン、サンコウチョウ
冬鳥	カワウ、ダイサギ、アマサギ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、サシバ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、メダイチドリ、ムナグロ、キョウジョシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ヤマシギ、セイタカシギ、ウミネコ、キセキレイ、ツメナガセキレイ、アカモズ、ノゴマ、アカヒゲ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、キマユムシクイ、メボソムシクイ、アオジ、アトリ、ギンムクドリ、カラムクドリ
旅鳥	アカハラダカ、サシバ、ヒバリシギ、ウズラシギ、アオアシシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、ハジロクロハラアジサシ、クロハラアジサシ、ホトギス、ヒメアマツバメ、アマツバメ、ヤツガシラ、ツバメ、ツメナガセキレイ、エゾビタキ、コムクドリ

*八重山群島の周辺海域は、マリーン IBA (Marine Important Bird and Biodiversity Areas : 海鳥の重要生息地) に選定されている

詳しくはこちら <http://www.wbsj.org/activity/conservation/habitat-conservation/miba/>

関連団体・自治体・施設等

- WWF サンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」



0 10 20 40 キロメートル

Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community